

■伊奈忠治(半十郎) 名代官頭だった父の後継として、その力量を存分に発揮し、関東郡代の世襲の始まりとなった。

いなただはる

文祿の役・・・1592＝ 関東移封してまもない徳川家康の近習として領国の整備推進，利根川付け替えの大事業に着手した\_伊奈忠次の次男に生まれる。

26聖人殉教・1596＝ 4歳：この年，父が相模国中原に陣屋御殿を造営。

関ヶ原の戦い・1600＝ 8歳：関ヶ原の戦いで家康の支配が確立後，父が代官頭となり，朱印船制始・1601＝ 9歳： 関東一円の基盤整備をして行くのを見ながら育ち，

やがて，\_父から独立し，2代將軍秀忠の勘定方役人を勤め，  
家康駿府退隠1607＝15歳：  
・・・1608＝16歳：\_早くも，用水路開発の功労者に褒賞を与えるなど，主体的に動き，

琉球使始・・・1610＝18歳：\*父が死去。その支配地のうち，千住・品川・板橋など江戸出入り口を中心に17万石支配の代官に任じられ，足立郡植田谷領内に知行800石を与えられる。

赤山を開拓して陣屋を設けて地域行政の拠点とし，北武蔵東部の新田開発に努め，

徳川家康没・1616＝24歳：

・・・1618＝26歳：\*兄忠政の死後，伊奈家の家督と代官頭の職を継ぐと，父以来の利根川付け替えの大事業を継続，

菱垣廻船始・1619＝27歳：

\_父忠次の仕法を継承発展させ，関東および駿河・遠江・三河の幕領を管掌。

利根川付替始1621＝29歳：埼玉郡で新川通りを開削，続いて，関宿に至る赤堀川の開削に着手，

イパニ断交・1624＝32歳：その一環として，常陸川筋の河道整備に着手し，

寛永寺創建・1625＝33歳：常陸・下総にまたがる谷原新田など流域の新田開発の拡張に努め，

・・・1628＝36歳：\_この頃，開発した赤山領6400石近くが知行地に組み入れられ，上級旗本に立身。

寛永禁書令・1630＝38歳：谷原5万石の新田が完成し，

糸割符拡大・1631＝39歳：開発功労者の論功行賞を実施。

徳川秀忠没・1632＝40歳：

鎖国令Ⅰ・・・1633＝41歳：栗橋・松戸・市川の関所を管掌し，関東領国支配の拡充をはかる。

参勤交替始・1635＝43歳：\_勘定頭に拔擢される。江戸川開削に着手し，

島原の乱始・1637＝45歳：

幕政に関与しても，多方面に大きな功績を挙げ，

失敗を重ね試行錯誤しながら，

家光鎖国完成1641＝49歳：\_江戸川完成により，利根川付け替えの大事業がようやく完了。

初の高札・・・1642＝50歳：\*將軍家光から直接，関東河川の修治と代官の監督を命ぜられて，後の関東郡代世襲の始まりとなる。

明滅亡・・・1644＝52歳：国絵図・城絵図の作成に参画し，

・・・1645＝53歳：関東の領主間の土地争いの検使役を命じられる。

・・・1646＝54歳：

・・・1647＝55歳：民政に意を用い領内に飢民なき功により褒賞を受ける。

徳川家光没・1651＝59歳：

野郎歌舞伎始1653＝61歳：\*玉川上水の開削工事に当たり水道奉行を命じられたが，まもなく没した。

関東郡代の基礎は忠治の在職35年の間に固められ，伊奈家は代々，関東郡代の職を世襲することになる。